

第五十八回「大会」のお知らせ

日 時 二〇一九年五月二十五日(土)
十二時三十分～十五時三十分

会 場 日本女子大学 人間社会学部
A棟二階第一会議室(西生田キャンパス)

大会日程

第一部 総会 (十二時三十分～十三時)
・会長挨拶
・二〇一八年度事業報告及び各部報告
・二〇一八年度会計報告・監事報告
・役員改選・承認
・二〇一九年度事業計画・予算審議
・その他

第二部 第二十三回「学縁のつどい」
(十三時～十五時三十分)

申し込み 準備の都合上、なるべく同封のはがきで
五月十日(金)までにお申し込みください。
(申し込みなしでの当日参加も歓迎です。)

※卒業生の方は、西生田キャンパス入構・スクールバス
乗車に身分確認用として、「葦」送付時の封筒をご持参
ください。



— 第74号 —

〒214-8565
川崎市多摩区西生田1-1-1
日本女子大学教育学科の会
電話 044 (952) 6870 (代)
FAX 044 (952) 6889
ホームページ
<http://jwu-gakuen.net/>
メールアドレス
info@jwu-gakuen.net

「教育学科の会第五十八回大会」のお誘い

会 長 田 中 雅 文

今年も、多くの卒業生と在校生の皆様のご参加を願って、大会のご案内をいたします。

大会は、第一部「総会」と第二部「学縁のつどい」で構成されています。

総会は、前年度の成果と課題を共有し、本年度の活動方針を決定する重要な機会です。

学縁のつどいは、今回が二十三回目となります。学生委員を中心に企画・運営をおこなっており、毎年、参加者から好評を博しています。昨年度は、豊富な経験を積み重ね、大学教授として活躍されている卒業生の方から、学生時代の過ごし方や「真理を探究し続ける意義」について、また、現在小学校教諭3年目の若手の卒業生の方から、進路選択の決め手や教員採用試験へのアドバイス、そして仕事の様子などについてのお話を伺いました。その後、講演内容についてグループごとに意見交換があり、講演者との質疑応答の時間がありました。参加した在校生には大きな学びの機会になり、卒業生にとっても自分自身の学生生活と職業生活を振り返る機会として有効だったようです。

近年では、学生委員の積極的な活動で、教育学科の会がますます活発になってきました。会のウェブページ (<http://jwu-gakuen.net/>) も随時更新されています。

多数の皆様のご参加をお待ちしています。

学び続ける子どもを育てるために

教育学科助教 五十嵐 敏文

提言

「過去から学び、今日のために生き、未来に対して希望をもつ。大切なことは、何も疑問を持たない状態に陥らないことである。」これはアインシュタインの格言です。身の回りの様々な事象に対して疑問をもち追究し続けてきたことが、アインシュタインは自身が多くのことを発見できたことの要因として挙げています。

5年生を担任しているとき、「先生、なぜチューリップは種子ではなく球根を植えるのですか。」と質問されたことがありました。それまで疑問に思うことがなかった問いでしたので、その場で即答することができずに困った私は「とても素晴らしい問いですね。先生も分からないです。明日までに調べてきますね。」と言いました。予想外の返答に驚いたA子でしたが、その日のうちに図書館で調べ私に教えてくれました。分からないことを素直に認めA子のために調べようとした教師の姿が、A子の学びに対する原動力となったようです。その後も、振り子の等時性はいかなる場合でも破れないのか、コイルの巻き数を増やせば増やしただけ磁力は大きくなるのか、全ての昆虫の脚は6本なのか等、子どもたちからたくさん質問を受けましたが、どれも即答するのではなく、しっかりと調べてから子どもたちに答えるように心がけました。

教師の仕事は、子どもたちに物事を教えることだけではありません。学びに価値を見出させ、学び続ける子どもに育てることも、大切な仕事のひとつであると考えています。もちろん、全ての子どもをアインシュタインのような科学者に育てる必要はありません。しかし、アインシュタインのように、目の前に現れる様々な問題を、自らの力で解決していける子どもを育てることは大切なことではないでしょうか。なぜなら、人生は問題解決の連続だからです。そこで必要となってくるものが「子どもと共に学び続ける教師の姿」であると私は考えています。

ホームカミングデイ・日女祭同日企画 講演会

毎年、日女祭にあわせて開催しているホームカミングデイ・講演会について、今年は二つの講演会が開催されました。

一つは、十月十一日(木)に、学問の枠を超えた自由な発想で地名論を展開し、執筆活動の傍ら、現在NHK「日本人のおなまえっ!」や

他のテレビ番組などでも活躍されている、筑波大学名誉教授で作家の谷川彰英氏による講演会「必見!平成の伊能忠敬に聞く〜遊びの中の教育的意義〜」が西生田キャンパス九十年館B棟十五番教室で行われました。平日にも関わらず、人間社会学部の在学生や、教育学科の卒業生などたくさんの方々が参加してくださいました。

もう一つは、日女祭第一日目の十月二十日(土)に、おもちゃで有名な株式会社バンダイの岩村剛氏による講演会「創造は想像以上だ!〜出前授業とユニバーサルデザインでつくる未来〜」が西生田キャンパス九十年館A棟第一会議室にて行われました。実際に小学校で実施しているユニバーサルデザインについての出前授業を行ってくださいただけで

なく、企業の社会的責任CSRやおもちゃ開発の裏側などについて講演いただきました。当日は、人間社会学部の在学生や教育学科の卒業生、地域の小学生を含めた一般の方など、たくさんの方々が参加してくださいました。

必見!平成の伊能忠敬に聞く 〜遊びの中の教育的意義〜

「必見!平成の伊能忠敬に聞く〜遊びの中の教育的意義〜」というタイトルは、プロジェクト実践演習IIを履修している学生たちで話し合いを重ね、たどり着いたものであった。伊能忠敬は、自らの足で測量し、日本地図を作成した。谷川氏の著書を拝見したところ、日本の地名や駅名の謎を解き明かしている本を多く執筆されている。両者とも、日本の土地に関連した謎を解き明かしている共通点から、このタイトルを付けた。

はじめに、谷川氏の地図大好き少年であった小学校時代のお話を当時の写真などを交えながらお話しされ和やかな雰囲気での講演会が始

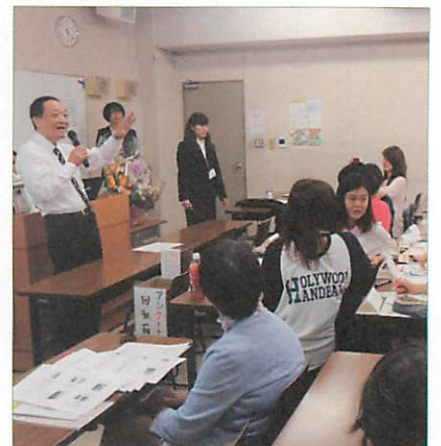
まった。

講演会は小学生への授業をイメージした構成となっており、時折私達への質問を交えながら進んでいった。

「子どもの興味関心は十歳頃に芽生える」、一生を左右するというインパクトのある言葉と、その理由を聞いた参加者からはなるほど!と納得の歓声が上がった。「あなたの歳はいくつ?」と聞かれたとき、「くっ」と答えられるのは九つまで。つまり九歳までで、九歳と十歳、そこが境目なのだ!! 谷川氏のお話には私達が今まで知らなかったり考えたことのなかったりした新鮮なことがたくさん詰まっていた。

さらに、「なぜやりたくもない勉強をやらされるのか?」という人生をかけての問いが高校時代に生まれたとお聞きし、はるか前から平成の伊能忠敬としての道を歩まれていたのだと感じた。

前代の遊びの話の中では、誰もが知っているかごめかごめやくれんぼ、だるまさんが転んだをやる中での子どもの学びについて教えてくださった。かくれんぼは、私達も何度も遊んだ経験があるが、「見える世界から見えない世界を推測する科学的な思考力」が実ははぐくまれていたとは衝撃的であった。また、だる



まさんが転んだという遊びからは、谷川氏が「十進法(算数)+機敏力」を身に付けていると発見された。

「学ぶ」の語源は「まねぶ」である。確かに、ままごとなどのまねごと遊びは母親や普段見ている光景を真似して再現している。

このように身近な生活の中や誰もが知っている遊びからも子どもはたくさん遊べることを遊びの中で学んでいることを改めて知る機会となった。

後半の「なぞとことわざ」についてのお話では、私達「小学生」は四〜五人ずつのグループに分かれてグループ対抗で谷川氏から出題されるなどなぞや地名の読み方の正答を考え、全体に共有していった。「三段なぞ」はテレビ番組「笑点」などでおなじみの「〇〇とかけて□□ととく。その心は?」というものである。

限られた時間の中で考えることは難しかったけれども、頭をフル回転

させてグループごとに力を合わせて考える姿が見られた。本当に小学生に戻ったかのように、ワクワクしながらこの時間を過ごした。

最後にまとめとして、遊びとは何か。子どもの遊びの教育的意義については、①自主的かつ自由な行動であるだけに没頭・集中できるということから子どもは、遊ぶべきである。②現実世界を超えた想像の世界で個性的な形象が創出できる。③自分たちのルールやマナーに従って行うので、相互規範能力が育つ。④偶然性・競争性・秘密性があることで、楽しむことができる。以上の四つ

ことを谷川氏がお話しされていた。「平成の伊能忠敬」から、多くの興味深く面白いお話を、聞くことができたこの時間はとても貴重な経験となった。そして、これから教員を目指す学生が多い教育学科の私達にとっては今一度子どもたちの遊びについて考えを深める大切な時間となった。

【教育学科3年

愛知真菜美・渡邊理沙】

創造は想像以上だ!

〜出前授業とユニバーサルデザインでつくる未来〜

この出前授業は、企業と学校とNPO法人の思いが重なってできた

ものだという。子どもたちに自分たちの会社について知ってほしいと思う企業。子どもたちに社会で働くことについて教えたいと思う学校。そのようなキャリア教育をもっと広めていきたいと思うNPO法人。それぞれの思いと、岩村氏とそれらに關わる方々との偶然の出会いから生まれたそうだ。二〇一四年から始めたこの出前授業はユニバーサルデザインについての理解を深める内容で、約九十分で行われる。この授業のねらいの一つに、二〇二〇年の東京オリンピックの年には多くの外国人が日本に来ることを見越し、言語の壁を超えたコミュニケーションにつながる必要がある。すでに百校近くの小学校で出前授業は行われている。授業を終えるたびに子どもたちにアンケートを取り、反省や試行錯誤を繰り返してより良い授業になるよう改善しているのだという。

日本女子大学での講演会では、岩村氏の自己紹介やバンダイという会社についての概要紹介の後、実際に小学校で行っているような出前授業の形式で進められた。テレビ番組のようなVTRを使用して授業が進められた。ちかちゃんと呼ばれるお姉さん、テレビ二ヨとケロちゃんというキャラクターが楽しい会話やクイズ、歌を挟みながら、まるで本物

の子ども向け番組を見ているような感覚でユニバーサルデザインについて学び、理解することができた。ユニバーサルデザインとは何か、具体的な例や楽しいクイズを通してケロちゃんが教えてくれた。ユニバーサルデザインがどのようなものかわかったちかちゃんが、ケロちゃんと一緒に歌われる歌はとても面白く、楽しく学ぶことができた。

また、VTRを見るだけではなく、ユニバーサルデザインについてより深く理解するためのワークショップの活動も行った。VTRで出てきたケロちゃんのユニバーサルデザイントランプの箱を工作する活動であった。もちろん箱に入っているトランプもユニバーサル



デザインの商品であり、カードのサイズや文字が通常のものより大きく、利き腕に関係なくカードの見開きの数字が見やすくしてある。また何も描かれていない真っ白なカードが2枚入っており、もしなくしてしまったカードがあつた場合に自分でそのなくしてしまったカードの絵を描けば、またカードが全て揃えられるという工夫には圧巻であった。工作する箱も、引き出しのような取っ手が付いており、どんな人でも開け閉めしやすいデザインになっていた。しかし、この箱の表面には何も描かれておらず、箱のパッケージを考え作成することができるようになっている。どのようなパッケージがお客さんの目に留まるのかという三つのポイントを教えてくださり、そのポイントを意識しながらパッケージを作成する活動は、実際に商品の企画をしているような気分になった。このケロちゃん

のユニバーサルデザイントランプは、カードの絵もユニバーサルデザインの商品についてのもの、遊びながらユニバーサルデザインについて学ぶことができるようになってきている。授業で工作を終え、自宅でもまたユニバーサルデザインについて理解を深められるのではないだろうか。

授業の最後には質疑応答の時間が設けられた。教育実習の研究授業でユニバーサルデザインについて扱ったという教育学科の学生から「九十分という限られた時間の中で、様々な子どもたちにユニバーサルデザインについて教える上で工夫していることは何か」という質問があった。岩村氏は、「何事も楽しいと覚えることができるから、どうしたら楽しいか、どうしたら笑ってもらえるのか」ということを考えて授業を進めている」と回答してくださった。このほかにも様々な質問があげられ、岩村氏はどの質問にも丁寧に回答して下さっていた。

この講演会に岩村氏のサポーターとして来てくださった、同じくバンドイの小林加奈氏は本学の児童学科の卒業生だそう。講演の前に、教育学科の会会長の田中先生は、「今は地域や民間の企業と学校の連結が強くなり、中でも今回の、子どものマーケットを作っている企業との関わりは、教員を目指す学生と民間企業への就職を目指す学生がいる教育学科の学生にとってとても良い機会である」とお話ししてくださった。この講演はまさに教育学科の学生にとって、貴重な機会と出会いになったのではないだろうか。

【教育学科3年 鈴木しおり】

退任に寄せて

吉崎 静夫教授

一九九三年より二十六年間、本学教育学科で学生指導にあたられました。専門分野は、授業研究を中心とする教育工学、教育方法学で、長年にわたって、小・中学校の先生方の授業づくりを支援されてきました。本学では、教職教育開発センター所長として、教育界で活躍している女性教員や、教員になることをめざして教職課程を履修している学部生や院生のサポートにご尽力されてきました。

◆日本女子大学で二十六年間務めた理由を教えてください。

本当は十年くらいで他の大学に移ろうと思っていました。二十六年間も在籍した理由は二つあります。一つ目は、目的を持ち、意欲がある学生が多かったことです。私が担当するゼミでは教職志望の学生が多く、3〜4倍の倍率の中で、ゼミ生全員が小学校教員採用試験に受かったときもありました。この学生たちは、勉強合宿を自主的に開いて、全員で勉強を頑張っていたと後から聞きました。驚きましたね。そんな団結心を持った、熱心な学生に恵まれました。二つ目は、学校環境です。西生田キャンパスは、春は桜、秋は紅葉というように四季

の変化を感じることができ、自然豊かな環境です。そんな西生田キャンパスがとても好きでした。この二つが、私が日本女子大学で学生指導を続けられた理由です。

◆教員として働く上で大切にできたことを教えてください。

教員として私が働く上で大切にできたことは、大きく分けて三つです。一つ目が学生の教育、二つ目は研究、三つ目は大学運営で、この三つをバランスよく行うように心がけてきました。一つ目の学生指導では、自らの研究を踏まえて、その研究の最先端のことや、現場での授業の動きを分かりやすく伝えること、学生の問題意識を大切にして指導を行ってきた。二つ目の研究では、現場主義を掲げて、全国の学校を周って研究を続けました。この現場主義は卒業論文指導にも繋がっていて、学生にも必ず現場へ行かせて観察とインタビュー調査をさせていましたよ。三つ目の大学の運営では、教職教育開発センター所長として、センターの立ち上げの時から九年間、運営に関わってきました。この三つを、バランスよく、逃げずにやってきました。

◆最後に学生へのメッセージをお願いします。

日本女子大学の学生は、真面目

で、誠実で、粘り強く、良い学生ばかりです。講義のレポートでは私も驚かされたことがあります。更に力をつけるために、自分で考えて、学ぶ、といったことを大事にしてほしいと思います。これからの知識基盤社会で生きるためには、そうした知的訓練が必要です。成瀬仁蔵先生も「自学自動」の教育実践をしてきましたが、本当にその通りだなと思います。教員という仕事も、ロボットやAIに替わることができないため、考えて、学び続けなければいけません。私は教員のそういうところが好きです。知的関心を持って、たくさんのことを学んで欲しいと思います。

◆おわりに

お忙しい中、インタビューにご協力いただき、ありがとうございます。私たちも、吉崎先生には1年生の頃から様々なことをご教授していただきました。またこうしてお話を伺えたことを大変嬉しく思います。これから教育現場では、ICT教育は重要度を増していくと思うので、吉崎先生に教えていただいたことを思い出し、自分で考えて使っていけるよう、頑張りたいと思います。本当にありがとうございます。

【学生委員3年

羽生田莉央 三木咲慶】

懇話会

障がい者が働くことについて
すべての人が働きやすい社会にするために

クリスマスを直前に控えた12月22日(土)、目白キャンパス百年館102教室に東京学芸大学名誉教授の松矢勝宏先生をお迎えして表題のお話を頂きました。会場には松矢先生の教え子さんや障がい者教育に関心の高い市民の方まで広くお集まりいただきました。松矢先生は東京教育大学大学院博士課程修了後、日本女子大学の一番ヶ瀬康子先生(社会福祉学科)や小川信子先生(住居学科)とのご交流があり目白台を懐かしく回想されお話がスタートしました。

タイトルについて

障がい者。色々な表記があります。障がい、私をあえて害、碍といった強い印象のある漢字は使いたくありません。今回頂いたテーマのとおり、少子高齢化社会においては、女性や外国の方、障がいのある方、すべての方が社会に参加する一つの形として仕事をするのが重要だと考えてい



ます。人生を生き生きと自分らしく生きるため、仕事は誰にとっても必要不可欠なものなのです。

わが国の雇用率制度について

雇用率制度は第一次世界大戦後、戦争による傷病者の支援と社会参加のためドイツ、フランスが先駆けとなつて制度化したものです。戦場が生活圏の中にあると人々は心身共に傷つき多くの障がい者を生み出しました。従軍兵士の心の傷は精神疾患として現れ、社会に戻つてからの雇用の妨げとなりました。ですのヨーロッパの雇用率制度における障がい者の範囲には精神障がいが含まれていました。日本の雇用率制度の制度導入は1976年身体障がいから適用となり、1998年に知的障がい、2018年になつて精神障がいまでを含むようになりました。日本

の制度もやつと成熟期を迎えたといえます。

最近の大きな変化として、障害者総合支援法と障害者雇用促進法による施策の連携により、福祉から雇用への移行促進が進んでいるということ。厚労省の資料によれば福祉から雇用への移行促進は大きく進展しました。(平成15年から平成30年の間に11.5倍もの雇用を生みました)

キャリア教育は
生涯を通して行うもの

キャリアという言葉は色々な意味に使われています。上級国家公務員を指して言う言葉ではなく、一人一人の生きる力を育み生き方を支援する教育に関わることなのです。えてして、児童生徒の保護者はキャリア教育＝職業教育と考えています。教員においても同様の誤解をしている方が少なくありません。本来キャリア教育は職業教育までを含む大きな考え方を指しています。「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程＝キャリア発達」と中央教育審議会では定義しています。そういう意味では78歳の私もキャリアの途中といえるのです。

障がい形成のある子どもたちのキャリア教育の研究は1980年代

にアメリカ合衆国で始まりました。ここでの考え方でキャリアとは「人が生涯で行う仕事と役割のすべて」とし、職業的、余暇的、家庭的、市民的の四つの領域にわたつています。仕事の定義も自立的な生活に必要な技能や態度の習得、身辺の自立から基本的な生活習慣の確立といった基礎があつてこそ、家庭や集団での役割活動、職業的な技能の習得へと展開します。キャリア教育は学校、家庭、地域のすべての領域において連携した教育活動です。

キャリア教育の原点

先覚者たちはキャリア教育という言葉が使われない時代からほぼ同様の考え方をしていました。1969年の段階で全特連の理事長三木安正先生は「持つている力の最大限の活用」「障害の自覚と克服」を教育目標に掲げ、児童生徒が「自分でできる事を知り、なんらかのできる役割を果たすようになること」を提言としています。糸賀一雄先生と共に歩んだ池田太郎先生は子どもたちは「無用の存在ではなく、有用な存在とおもわれたい」と願っていると云っています。どんなに障がいが高くとも子どもの自尊感情を支え、失敗しても「主体的にできる状況」を工夫し自己肯定感を育むこと、自分のできることを一つでも多

く身につけ自己の役割を果たす事ができるように導くこと、これがキャリア教育の原点です。失敗を恐れず力いっぱい活動し、達成感を享受できるような環境を用意することが大切です。自分の力でできる活動と役割の種類とその範囲を理解し、不得手なことは支援を求め態度を習得すれば、自立的な生活を生きることができ、肯定的な自己理解へとつながります。

奇跡の人を導いた アン・サリバン

かの有名なヘレン・ケラーを教育したアン・サリバンはまさにキャリア教育の実践者でした。甘やかされて育ったヘレンに対しサリバンは、自尊心を傷つけることなく受容することを心がけました。自分が認められているという関係性の構築によって、ヘレンには自立への意欲が生まれ、学ぶことにより社会人として立派な人生を送ることができました。彼女たちの活躍は、障がい者教育や福祉の世界に大きな影響を与えました。

働く力とは

企業で働いている障がいのある人は沢山います。重度の知的障がい者であっても活躍する場があるので

す。まずは早い時期から自分のよきや生きる力を一つ一つ習得していくことです。

- 1 基本的な生活習慣を確立し、挨拶等の社会的なマナーやコミュニケーションがとれるようになる
- 2 与えられた仕事について、丁寧に正確に作業ができるようになる(品質管理に関係する力)
- 3 正確により多く作業するように取り組むことができる(生産性、労働密度の高さ)。こうした力を身につけるには

家庭、学校、福祉事業所でのキャリア教育が必要です。

三越伊勢丹特例子会社 ソレイユの事例

百貨店業務のバックヤード工程で障がい者の活躍の場があることはあまり知られていません。重度の障がいがあっても補助具を用意したり、手順書を準備するなどの工夫により業務遂行が可能です。伝票の押印、贈答用のリボンの作成、修理加工品伝票に品番やシヨップ名、内線番号を書くといった作業もあるため、重度の社員でも例外なく平仮名、カタカナ、ローマ字、数字、必要な漢字を習得しています。教える側の工夫

と対応次第で誰もが働ける職場になります。

人は働いて社会に参加することで自己の有用感が生じてきます。

こちらの例だけでなく、東京都では知的障がい特別支援学校高等部卒業生(平成30年3月)の就職率が49%を超えています。企業は真面目でしっかり自己管理できる障がい者の採用に積極的なのです。今後益々増えていく企業での就労に注目したいです。

☆参加者の声

- ・働くことは、人生を楽しむこと、印象的な言葉でした。誰にとっても大切なことですね。
- ・ヘレンケラーとサリバン先生の関係性がヘレンをあのよう成長させたことをよく理解できました。
- ・歴史から基本的なこと、さまざま知識を広く教えていただきました。頭の中が整理できた気持ちです。ありがとうございます。
- ・デイサービスの指導員として働いています。支援をしながら子どもたちの将来や学校卒業後の不安を感じていましたが、本日のお話を伺い、社会はこの子たちに大きな期待を寄せており、将来は明るく希望をもって働けるのだと思えました。私の支援が子どもたちの明るい将来を支えるのだと思いい望を持ちました。

・障がい者が共に働き共に生きる社会を、日本の社会は実現させる必要があると改めて思いました。法律や制度を時代にあって改訂することは大事ですが、サリバン先生のような援助者が、障がいを持つ人に共感し、自尊心を認めて共に成長していくような関わりが必要不可欠だとも思いました。人の成長は生涯にあたるもので本当に奥深いことだと思います。

・歴史的なことから、大きな流れを話して頂きました。働くことは生活を豊かにする。それは障がい者でも普通の人でも同じです。人である限り同じことです。

・障がい者も含めすべての人が働きやすい社会づくりを目指し、日本の制度も進んでいることを知ることができました。働く事が自立につながり、楽しみも経験して頂けたらと思います。私たち自身もそうありたいと思います。

・滝乃川学園の話、三越伊勢丹ソレイユの話など、現場の事に詳しい印象を受けた。文科省がらみの施策の話だけでない、実際の事を聞けるとわかりやすい。当事者とともに支援に取り組む姿勢に心を動かされる思いだった。

【37回生 中込 知野】



会員の広場

ハガキ コーナー



◆二つのホームカミングデイの企画、それに懇話会、いずれも興味深い内容でぜひ伺いたいです。多くの会員に呼びかけたいですね。この会の特色である「学生・教員・卒業生が共に」学び、語り合える場となりますように。

(大森桃子 26回生)

◆4月に無事定年退職を迎えました。現在は引き続き再任用教員として同じ職場におります。フルタイムなので仕事は変わりませんが、よくここまで仕事を続けてこられたなど家族に感謝しています。これからは体力勝負。ゆるい筋トレに励む毎日です。

(竹市基美与 30回生)

◆大学を卒業して30年以上が過ぎ、念願の教員生活も25年を過ぎようとしています。養護学校の教員を続ける中で、何を伝えるか?よりもどう伝えるか?を考えることの方が大切だと痛感しています。

(安藤裕子 36回生)

◆日本語ボランティアとして外国人の方に日本語を教えるボランティアを始めて6年目、視覚障害者の方のための音訳ボランティアを始めて4年目になりました。ささやかですが地域に関わってられることが嬉しいです。

(赤塚国子 24回生)

◆成瀬仁蔵研究会、WILLPE(婦人国際平和自由連盟)の勉強会、それぞれ月1回目白に足を運びます。成瀬にはじまり、明治の女子高等教育について、また平和やジェンダーの問題を学ばせていただき、新聞を読むのも視点が広がります。いつまでも学ばせていた、ただける母校があるのは良いものだと感じています。

(浦野敬子 25回生)

◆「先輩にインタビュー」で、黒田未佳さんがお話されていました。大学時代、共に学んだことをなつかしく思うと同時に、私たちも歳をとったなあとしみじみ。今、大学4年の実習生が私のクラスに実習にきています。(衛藤美幸 63回生)

◆新任教師として働く多忙な日々。朝早くから夜遅くまで働き、休日も出勤。疲れがとれず、何度も風邪をひいている。それでもクラスの子ども達がかわいし、楽しい。「先生、大好き」の言葉に癒される。休みが欲しい!

(田中友理恵 68回生)

2018年9月27日、教育学科の会理事4名で「唐澤博物館」を見学しました。唐澤博物館には、教育学科元教授で教育学・教育史研究家の唐澤富太郎先生が長い歳月をかけて収集された数万点の資料の中から約7000点が展示されており、子どもの教育と遊びの世界を一目で見ることができ大変貴重な博物館です。明治時代の国定教科書や通知簿、江戸から昭和まで遊ばれたコマやメンコなどの玩具、硯やそろばんなどの文具も実物を見ることができます。

教職を志す学生のみなさんはもちろん、昔懐かしい教材や玩具に心躍るであろう卒業生のみなさんもぜひおでかけください。教育学科卒業生の唐澤るり子館長が迎えてくださいます。

開館は電話もしくはメールによる予約制です。

西武池袋線・桜台駅、都営地下鉄大江戸線・新江古田駅、東京メトロ有楽町線・新桜台駅より徒歩。

☎ 03(3991)3065

✉ karasawamuseum@hotmail.co.jp



クロスワードパズル

二重枠の文字を組み合わせることができるひらがな五文字の言葉は？

1	6		9		14
2			10	12	
			11		
3		8			
4	7			13	
5					

答え

--	--	--	--	--

<ヨコのカギ>

- もうすぐ終わる
- 2014年のオリンピックの開催地
- 西の市で買う縁起物
- 映画「日日是好日」の著者は、本学国文学科卒の〇〇〇〇典子氏
- これは、家族の中で誰の仕事？
- 年月の中でこれを感じる
- 首都がベルンの国
- フランス語でイエスは何て言う？

<タテのカギ>

- おなかの真ん中の小さなへこみ
- 読者モデルの略
- 築地は豊洲へお引越し
- アフリカ北西部にある共和国
- 500ミリリットル=〇〇〇リットル
- このパスタはお歯黒になる
- 〇〇〇〇占い
- 冷たいときはレモンそれともミルクそれともストレート？

<ヒント>

キンポウゲ科の花の名前。(〇〇〇〇〇の丘)

- ◆解答を同封のハガキに書いて送ってください
正解者 10名に図書カードを贈呈します。(正解者多数の場合は抽選)
- ◆前回の正解は「くいこい」でした。
たくさんのご応募ありがとうございました。



締め切り
5月10日(金)
必着



[当選者] (敬称略・数字は回生)

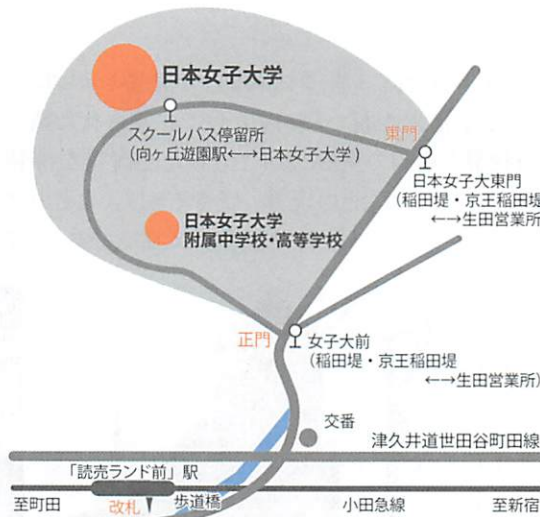
定塚 素子 (8) 近藤 久美子 (10) 佐久間 智子 (15) 高橋 園子 (21) 長谷川 貞子 (30)
安藤 裕子 (36) 柿崎 成美 (62) 伴野 美緒 (67) 佐野 なつみ (68) 阿部 藤子 (院 35)

◆スクールバスダイヤ

2018年度の土曜日用です。
2019年度は変わる場合があります。
ホームページでご確認ください。

時	向ヶ丘遊園駅北口発	日本女子大学発
8	18:30 43	
9	07:20 50	25
10	10:22 42	05 20 50
11	15:40	20 40
12	00:15 45	07 30 40 57
13	00:15 40	20 40
14	00:30	10 40
15		15 30

※卒業生の方は西生田キャンパス入構・スクールバス乗車に際して、身分確認用として、「葦」送付時の封筒をご持参ください。



交通のご案内

- ◆小田急線 読売ランド前駅下車
徒歩 15分
・新宿から急行 25分 (向ヶ丘遊園乗り換え)
・新宿から準急 30分
- ◆小田急線 向ヶ丘遊園駅下車
北口3番停留所よりスクールバス (所要時間約15分・無料)
- 京王線
『京王稲田堤』駅下車/
小田急バス(生田営業所行)約12分/
日本女子大東門または女子大前下車
- JR南武線
『稲田堤』駅下車/
小田急バス(生田営業所行)約12分/
日本女子大東門または女子大前下車

年号表記の記載につきましては、原稿により、和暦と西暦があり、併用しています。

(石井美奈子 38回生
会報編集部長)

★昨年10月に、卒業30周年を祝う会に参加しました。それぞれに人生を重ねた仲間たち、目白で共に学んだ頃よりさらに魅力を増していました。

(妙園園やよい 34回生)

★新年号と共に何か新しいことにチャレンジしようと思案中。技能を身につけるか、知識を広げるか、身体を鍛えるか……。

(佐藤恭子 34回生)

★この前お正月をお祝いたしたと思ったら、またお正月。時間は×年齢の速さだとか。一分一秒を大切にしなければいけませんね。

(齊藤素子 34回生)

★なぜ?という疑問、知りたい!という欲望、思考を停止させない教育の重要さを痛感する昨今。

(内山睦美 34回生)

★今、母の自分史を編纂(?)中。満州、中国、九州から東京。元祖帰国子女のたくましさ、様々な人物や場所の登場は小説より面白い。

(星野ひろみ 37回生)

★年賀状で、「葦」を楽しみにしていると書いてくれた友人が何人かいて、読んでくれていたんだなと、とても嬉しいです。

(佐野加奈子 59回生)

★学部、院と4年間お世話になった吉崎先生のご退職は寂しい限りです。先生との思い出溢れる教育学科との縁を今後とも大切にします。

(星野ひろみ 37回生)

★吉崎先生のご退職は寂しい限りです。先生との思い出溢れる教育学科との縁を今後とも大切にします。

編集後記